



# 小田原材のスギ・ヒノキ苗を守る竹苗ガード 500 基設置！ 小田原の森と林業をシカから守ろう！

**シカさん、あなたに罪はないけれど** 10年ほど前から小田原箱根山地にもシカが定着し、今、久野の林地では樹皮喰いやシカの角コスリで、林業被害が多発しています。自然林では低木が枯死し、植生劣化や裸地化が始まっています。昆虫、哺乳類、土壌生物など、生態系への影響も心配です。

みんなでシカ対策を考える一歩として、また将来の小田原産材を守るアクションとして、久野の500本のヒノキ苗に竹苗ガードを設置します。(写真) 皆様のご支援の手を是非貸してください！

2017年 **11/5** 日 集合 8:30 小田原市役所 P 乗り合わせて現地へ 9:00 林業被害見学  
シカの話：古林賢恒さん(元丹沢大同学術調査副団長) 9:40 竹苗ガード設置 役所 P 帰着 12:00



苗の周りに4本の割り竹を刺し、棕櫚縄でくくります。  
沼代の竹、有効活用！

主催；NPO法人小田原山盛の会  
共催；小田原市森林組合・  
おだわら環境志民ネットワーク  
後援；小田原市  
協力；ブリの森づくりプロジェクト・  
サシバプロジェクト実行委員会・野鳥の  
会西湘ブロック・小田原森のなかま



歯形がつく樹皮喰いのヒノキ



角こすり被害

●実施地；釜石林道ゲート脇 足柄財産区地内 ●参加費；無料 ●必要なもの；軍手・飲み物・歩ける靴または長靴・元気なからだ？ ●中止の連絡；前日の21時までいたします。

●沢山の手が必要です。皆様、お誘い合わせてお越しください！

参加お申込みは NPO 法人小田原山盛の会 川島範子 090-9349-7014 ☎ [norako.k@nifty.com](mailto:norako.k@nifty.com)

シカの餌場となる新植地を柵で囲う事はシカの高密度化を防ぎます。

早期の柵設置を願い、まずは苗ガードで大切な木を守るアクションが、箱根山地のシカ対策に繋がっていきます。

丹沢の二の舞にしないように、みんなで箱根山地を守りましょう!



連載 | 追う | 地域発 | 語る | 問う | 論説 ■ 特報

箱根町と小田原、南足柄の両市にまたがる箱根山地で、二ホンシカによる被害が拡大を続けている。5月の民間団体の調査で初めて箱根山地でのスギとヒノキの食害が判明、丹沢から流れて増えたシカによるものとみられている。一方、環境省はこの春に対策案をまとめ、県も本年度からの新たな管理計画で箱根一帯を「定着防止区域」に格上げするなど、関係機関の危機意識は高まっている。(岩崎 千恵)

■初めての被害

「これがシカが食べた痕なんです」。元大学教授や獣医師らでつくるNPO法人「小田原山盛の会」の関係者が高さ50センチほどのスギを指さした。背後の同じ高さのスギと比べると、幹の先端にある緑色の芽がすっかりなくなっている。

小田原市中心部から10キロほど離れた同市内の箱根山地の森林地、小田原山盛の会のメンバーらは5月9日、調査を実施し、植栽されているスギやヒノキ約8千本のうち、約500本で食害を確認した。シカの跡が厚く高さの芽がなくなっていたほか、樹皮が剥がされた幹の内側や枝の先の葉にも食痕があった。

「手を打たなければ、箱根山地もあと10年で丹沢と同じ状態になる」。食害による裸地化で起きる土砂流出や、植栽された苗がその日のうちに枯死化するなど深刻な被害が多発する丹沢山地を引き合いに、会員の一人は危機感を示す。

■林業にも影響

シカは大食漢で大抵の植物を

箱根山地 シカ食害

あと10年で`丹沢化、

地元危惧「今こそ対策を」

食べることで知られるが、どちらかというときやヒノキは栄養価が低く、かつ消化にも難く好まない。その樹木が箱根山地で初めて被害に遭ったことから、同会は「箱根山地のシカが増殖したことで、全面に食べ物が十分に回らなくなり、スギやヒノキを食べざるを得なくなっている」とみている。

心配されるのが林業への影響だ。同会のメンバーは「芽を食べられることで、成長の速度が遅くなる」と頭を悩ませる。シカはスギやヒノキを食べただけでなく、交配期に雄にアピールするため、雄が幹に角をすりつけて磨く「角すり」にも使つ、同種にもすりつけられた樹木は、外樹皮が剥がれ落ちることで栄養が吸い上げられず、内樹皮から木材腐朽菌が入り込んでしまうため枯死してしまう。

調査を実施した造林地では、

茶色の外樹皮が剥げ、白っぽい内樹皮がむき出しになったヒノキが点在している。とても種かめにすぎない。同会によると、数年前に植栽された約900本のヒノキのうち、約600本で食害と角すりの被害が見られたという。

■動く関係機関

一体、シカは箱根山地でどのくらい生息しているのか。国も県も正確な数字は現在のところ、把握していない。ただ、森林内の植生調査が滞りなく行われるだけでなく、静岡県伊豆方面からも入り込み、生息域を確実に広げてきているとみられている。

こうした現状に危機感を強めている関係者は今春、対策案をまとめた。

その中で「100年以上にわたってシカの生息が確認されて

◆二ホンシカ 北は北海道から南は九州まで生息、群れで生活し、毎年春から夏にかけて1頭を出産する。もともと山間や市街地の拡大に伴い、神奈川県全域を侵襲していった。山岳地に分布した。丹沢をはじめ、全国各地の山岳地でも増加、高密度化し、農作物などの被害のほか、木の皮や樹皮を食う高山植物を食い荒らすなど深刻な問題になっている。

いながら箱根地域(神奈川、静岡両県)でも1980年代から自繁が目立つようになり、数年前からは富士山麓にまで分布が広がったと指摘。数年前からは富士山麓にまで分布が広がったと指摘。数年前からは富士山麓にまで分布が広がったと指摘。

現在管理計画を策定中の箱根町に加え、より多くの周辺自治体でもついで、豊原1平方キロメートルのシカを餌以下に抑えたいとしている。フェンスや柵を設置し、スギやヒノキを食害から守ることも検討する。

「まなま食害が広がっていない今だから、箱根山地での対策が必要だ」。会員は強い口調で警鐘を鳴らしている。



シカ被害により枯れたヒノキを調査するNPO法人の関係者



苗木の保護に備え、樹皮ははがれたヒノキNPO法人の関係者がシカの食害を防ぐために苗木にガードを設置した

